

新大阪駅周辺地域の検討経過

新大阪駅周辺地域 まちづくり方針の骨格の検討経過

○新大阪駅周辺地域が都市再生緊急整備地域の候補地域となる(2018年8月)

○第1回検討協議会会議(2019年1月)

- ・新大阪駅周辺地域の担うべき役割
 - (1)スーパー・メガリージョンの西の拠点
 - (2)広域交通ネットワークの一大ハブ拠点
 - (3)関西・西日本・アジアのゲートウェイ

※第2回検討協議会会議で提示した際の数え方は団体数でしたが、今回より延べ人数に変更しています。

協議会構成団体
での検討

協議会構成団体以外PR及び意見交換など※

- ・民間事業者等(18名)
- ・学識経験者 (13名)

○第2回検討協議会会議(2019年9月)

- ・新大阪駅周辺地域に導入すべき都市機能
 - (1)交流促進機能
 - (2)交通結節機能
 - (3)都市空間機能

協議会構成団体
での検討

協議会構成団体以外PR及び意見交換など

- ・民間事業者等(46名)※1/10時点
- ・学識経験者 (5名) 学生(数十名)

意見交換
【資料1-2】

○第3回検討協議会会議(今回)

- ・対応すべき課題、まちづくり方針の骨格(素案)

(参考)新大阪駅周辺地域が都市再生緊急整備地域の候補地域となる経過

○ 国の「骨太の方針《抜粋》」 H30.6

- 新大阪駅について、リニア中央新幹線、北陸新幹線（詳細ルート調査中）等との乗継利便性の観点から、結節機能強化や容量制約の解消を図るため、民間プロジェクトの組成など事業スキームを検討し、新幹線ネットワークの充実を図る。

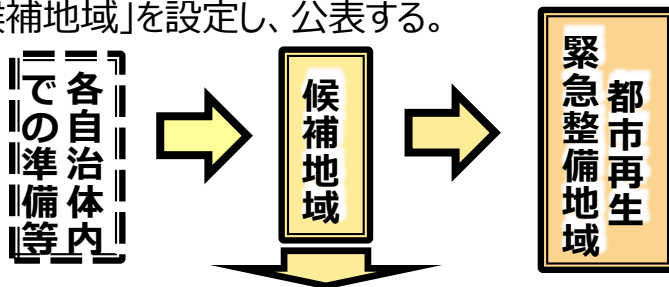
(新大阪駅周辺地域をとりまく環境のイメージ)



○ 都市再生本部の動き (本部長：内閣総理大臣) H30.7

■ 都市再生緊急整備地域の候補となる地域 (仕組みが追加)

- 都市開発の気運醸成を促し、早期の民間都市開発を図るため、国が「候補地域」を設定し、公表する。



8/29 新大阪駅周辺地域が候補地域として公表

○ 大阪都心部の都市再生緊急整備地域 (候補含む)



都市再生緊急整備地域の効果 (例)

容積率の緩和 + 地域貢献 (基盤整備等)

うめきた (グランフロント大阪)



大阪駅北地区

容積率: 800% → 1600%

地域貢献: 広場整備等

(参考)新大阪周辺地域のまちづくりの大きなスケジュール

2018～2019年度 : 将来像などのまちづくり方針の骨格

リニア・北陸新幹線の
駅位置の方向性を踏まえ

2020年度(以降) : ゾーニング、インフラ計画

2020年度(以降) : まちづくり方針の作成

2020年度(以降) : 都市再生緊急整備地域の指定

公共施設整備と民間都市開発の実施

民間の
創意工夫

民間都市開発プロジェクト
検討

確定

